様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月２４日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2007 ～ 2010
課題番号：１９３３０１２０
研究課題名（和文）文化多元主義と社会的正義に関する研究

研究課題名（英文）Multiculturalism and Social Justice

研究代表者
ポール･デュムシェル(Paul Dumouchel)
立命館大学･先端総合学術研究科･教授
研究者番号：８０３８８０１７

研究成果の概要（和文）：社会的正義とは公平な富と資源配分への追求であるが、文化多元主義においてはその配分における公平の是非が、文化、民族、言語そして他のグループ間における差異への配慮により大きく変化する。私達の研究はセオリーよりも現実の世界に焦点を当て、調査結果も初期から最終段階において実際に発生したグローバリゼーションの活発化とテロリズムに対する政治的価値の増大により大きく変化を遂げた。また昨今において文化多元主義は安全保障問題に、また社会的正義はグローバリゼーションへの追及により大きく影響を受けている。この様に社会的正義と文化多元主義は個々に存在せず、社会的、政治上の国際的正義に常時影響を受け、切り離せない存在となっている。

研究成果の概要（英文）：Social justice is the question of the fair distribution of wealth and resources, multiculturalism the claim that this distribution cannot be fair if it fails to consider cultural, ethnic, linguistic and other group differences. Our research was mainly reality driven rather than theoretically determined and our results reflect changes in reality between its beginning and end. These changes proceeded from the quickening of globalization and growing political importance of terrorism. In consequence of which discourses on multiculturalism have often been replaced by issues of national security which are then invoked to reject claims based on group differences. Simultaneously discourses on social justice have been profoundly reorganized in response to globalization. We assist to the universal growth of inequality while claims of social justice are rejected in the name of a more difficult international environment. Our main result is that questions of social justice and multiculturalism can no longer be addressed within each society individually and are now inseparable from issues of social and political international justice.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2008 年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2009 年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2010 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
総　計	10,700,000	3,210,000	13,910,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学･社会学
キーワード：多文化主義，社会的正義，個人権利、集団権利，政治，文化,公平性,移民.

１．研究開始当初の背景
この調査の目的は多文化主義と社会的正義の関係性について探ることである。二つのトピックスは密接に関連し合っており、社会内で剥奪されている個人や集団の権利主張や権原などの事象をとらえる異なるアプローチを示すものといえる。多文化主義と社会的正義との関係をめぐる新たな視点を打ち出すために、本研究は、集団的権利と個人的権利の問題を検討した。その結果、特にグローバリゼーションや移民問題について考えたとき、個々の社会に個別に焦点を当てるのではなく、多文化主義と社会的正義という２つの問題が交錯する領域に焦点を当てる方が、生産的であることに気づいた。

２．研究の目的
この研究の目的は、理論の行き詰まりとなると以前より考えられていた集団権利と個人権利との間の対立から逃れることにあった。例えば、個人の権利対集団の権利といった言語上の相違の背後にあるものをつかむことによって、多文化主義と社会的正義の真の争点をつかむことができることがわかった。本研究は、また、文化多元主義と社会的正義における理論的問題が、現実に社会政策にどのように関係しているかを探った。理論的問題が政策にどれ程影響を受け、また逆に理論的問題が政策にどれだけ影響を及ぼすのかを理解することを目的とした。

３．研究の方法
私達の調査内容から考えられる研究方法は 2 つあった。１つはフィールドリサーチによるものであり、他の１つは学者や卒業生を含む調査メンバーにより定期的にクローズドなセミナーを開き、研究を進めることであった。またセミナーに加え、毎年定期的に多文化主義と社会的正義を論題にした国際カンファレンスを開いた。そのうち２つの学会は院生を主役とするコンファレンスを開き、日本だけでなく他国にも呼び掛けを行い、厳正な審査のうえ、報告を希望する多くの院生や若手研究者を招き入れた。また 2010 年に開いたコンファレンスでは、ヨーロッパ、北アメリカ、インドとアフリカから、それぞれの論題に関して、自らの文化的経験をもとに理論を形成してきたスペシャリストを招き入れ、とても重要かつ意義のある議論を創出した。

４．研究成果
社会的正義そして多文化主義の問題は、例えば、移民問題が及ぼす影響の様に、個々の社会においてそれぞれ独立に考察するのではなく、国際的相互関係や経済的なグローバリゼーションなどを含めた、より広い視野から見つめる必要がある。私たちの研究結果もその事実に大きな影響を受けた。従来の理解とは異なり、政治的相互関係の変化を各々の国家において、また、個々の国家間関係において個別に理解することは出来ないことは明らかである。1 つの社会の政治状況に固有の問題であるかのように見えるものが、実のところ、それとは、まったく無関係な事柄と深く関連しているからである。例えば、フランスでブルカ（イスラム教の女性が身に付けている、顔を含めた全身を覆う服装）の着用禁止が決定された背後には、ベルギーや他のヨーロッパ諸国と同様に、イスラム教のコミュニティグループと多数派のヨーロッパ人の間の対立にとどまらない国際的な問題と深く関連する緊張と恐れがあったことが指摘される。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 57 件）

① Paul Dumouchel, Faut-il interdire la *burqa*? Vu d'ailleurs, vu de loin, *Esprit*, , 2010/10/368 巻, pp14- 24. (2010) (査読有)

②後藤玲子「福祉と成長――その異質性と親和性――」『at プラス』04 号、太田出版,pp.26-38, (2010)（査読無し）

③後藤玲子「償いでもなく、報いでもなく、必要だから　――公的扶助の＜無条件性＞と＜十分性＞を支援する――」、『福祉社会学研究 7』、東信堂、pp24-40 (2010)(査読有)

④後藤玲子「公的扶助制度に関する法と経済学――「福祉への権利」の妥当性と実効性について」宇佐美誠編『法学と経済学のあいだ：制度と規範を考える』勁草書房、pp.111-139、(2010 年)（査読無し）

⑤萩原康夫・松村祥子・宇佐見耕一・後藤玲子編「アメリカ合衆国」『世界の社会福祉年

鑑 2009 年度版』, 旬報社, pp.161-182. (2009 年)（査読無し）

⑥Paul Dumouchel, Inside Out: Political Violence in the Age of Globalization, *Contagion*, 15/16, P173-184. (2009) (査読有)

⑦後藤玲子「アメリカン・リベラリズム――福祉的自由への権利の不在」、下平好博・三重野卓編著『グローバル化のなかの福祉社会――21 世紀の社会像』講座・福祉社会所収、ミネルヴァ書房、pp.157－176. (2009 年)（査読無し）

⑧Paul Dumouchel, Ethics and Economics – Of Value and Values, *Zfwu Journal for Business, Economics and Ethics*, vol.9.pp28-40. (2008) (査読有)

⑨ Paul Dumouchel, Equality and Recognition, *Ritsumeikan Studies in Language and Culture*, 19: 4 pp.117-127. (2008) (査読無)

⑩後藤玲子「差別――ロールズ格差原理の再定式化――」藪下史朗・川岸令和編著『立憲主義の政治経済学』, 東洋経済新報社 pp.215-235(2008 年)（査読無し）.

⑪後藤玲子「多文化社会における社会的選択」,『立命館言語文化研究』, vol.19.4, pp.107-116(2008 年)（査読無し）.

⑫後藤玲子「格差論議の方法的省察――＜正義＞の観点と経済学的思考様式――」,『社会政策研究』, No. 8, pp. 9－33(2008)（査読有）.

⑬後藤玲子「＜社会的排除＞の観念と＜公共的経済支援政策＞の社会的選択手続き」, 武川正吾・埋橋孝文・福原宏幸編『社会政策の新しい課題と挑戦』第 3 巻, 法律文化社, pp.43-62. (2008)（査読無し）

⑭萩原康夫・松村祥子・宇佐見耕一・後藤玲子編「市場と社会福祉」『世界の社会福祉年鑑 2008 年度版』, 旬報社, pp.3－29.(2008 年)（査読無し）

⑮後藤玲子「＜実質的自由＞の実質的保障を求めて――ロールズ格差原理と潜在能力理論の方法的視座」, 季刊『経済理論』, 第 43 巻, 第 4 号,pp.41-54, (2007 年)（査読有）

⑯後藤玲子「潜在能力アプローチにおける社会的選択問題――「すべての個人に基本的潜在能力を保障する」社会的評価は形成可能か？――」, 季刊『社会保障研究』43 巻, No. 1 , pp.15-26. (2007 年)（査読有）

⑰ Paul Dumouchel Multiculturalism and Liberalism in Canada, *Ritsumeikan Studies in Language and Culture*, 18:2, pp.95-106(2007) (査読無し)

〔学会発表〕（計 34 件）

① Paul Dumouchel, La violenza, catastrophe della ragione, *Catastrophi generative mito, storia, letteratura* (2009 年 4 月 7 日)イタリア、メッシーナ

② Paul Dumouchel, La technique et la banalité du mal *Dans l'œil du cyclone, Colloque de Cerisy* (2007 年 6 月 10-17 日) パリ,フランス

〔図書〕（計 31 件）

①Paul Dumouchel, *Economia dell'invidia antropologia mimetica del capitalismo moderno* ,Transeuropa(イタリア) P204(2011).

② Paul Dumouchel, *Le sacrifice inutile essai sur la violence politique* Flammarion(フランス), p323 (2011)

③ Paul Dumouchel, *Nationalisme etMulticulturalisme en Asie,* L'Harmattan(フランス), p237 (2010) ,

④ポール・デュムシェル、後藤玲子, *Against Injustice The New Economics of Amartya Sen* Cambridge University Press, p317 (2009).

⑤後藤玲子・斉藤拓訳『ベーシック・インカムの哲学』, 勁草書房, Van Parijs, Philippe (1995), *Real Freedom for All: What (If Anything) is Wrong with Capitalism*, Oxford University Press.P494 (2009)

⑥ Paul Dumouchel, « Mimétisme et génocides » *L'Herne Girard* (Mark Anspach, 編) Édition de l'Herne(フランス), pp.

247-254. (2008)

⑦Paul Dumouchel, Social Emotions » in Canamero L., Aylett R. (eds), *Animating Expressive Characters for Social Interaction*, John Benjamin Publishing Company, (アムステルダム/フィラデルフィア)pp. 1-19(2008).

⑧Paul Dumouchel, *Emozioni Saggio sul corpo e il sociale* (ミラノ)Medusa, P204(2008)

⑨Paul Dumouchel "Guerre et histoire dans l'oeuvre de Raymond Aron" *La Philosophie de l'Histoire. Hommages offerts a Maurice Lagueux* (Ch. Nadeau & A. Lapointe, eds.) Presses de l'Université Laval(ｶﾅﾀﾞ), pp. 301-318. (2007)

〔その他〕
ホームページ等
①
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/gsce/s/pd01/Multiculturalism_and_Social_Justice.html

②Working Papers series on Social Justice and Multiculturalism
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/gsce/s/pd01/Multiculturalism_and_Social_Justice_FileIndex.html 13 titles in all, 4 of which are by students who participated in the research.

③ Paul Dumouchel, La violenza tra indiffirenza e sistema » interview with Marco Dotti in *Communitas* 37/38: 117-129

Paul Dumouchel, Interview with Erno Eskens " On political violence " at http://www.isvw.nl/

６．研究組織
(1)研究代表者
ポール　デュムシェル(PAUL DUMOUCHEL)
立命館大学･大学院先端総合学術研究科･教授
研究者番号：80388107

(2)研究分担者
ジェリー　エイズ(JERRY　EADES)
立命館アジア太平洋大学･アジア太平洋研究科･教授
研究者番号：80232106

後藤　玲子（GOTO REIKO）
立命館大学･大学院先端総合学術研究科･教授
研究者番号：70272771

西川　長夫（NISHIKAWA NAGAO）
立命館大学･大学院先端総合学術研究科･講師
研究者番号：00066622

富永　茂樹（TOMINAGA SHIGEKI）
京都大学･人間科学研究科(研究院)･教授
研究者番号：30145213

テルミ　ハタノ　リリアン（TERUMI HATANO LILIAN）
甲南女子大学･文学部･教授
研究者番号：10340910

大澤　真幸（OHSAWA MASACHI）
京都大学･人間環境学研究科･教授
研究者番号：30194129

(3)研究協力者
ノア　マコーマック(NOAH MCCORMACK)
京都産業大学･国際関係学科･准教授